

貿易投資相談ニュース

2026年8月 Vol.292

多摩信用金庫 海外事業支援部 住所：〒190-8681 東京都立川市緑町3-4

<https://www.tamashin.jp/>



多摩信用金庫

今月の見出し

1. 世界の主要ニュース
2. たましん公表外国為替相場
3. 【現地出張レポート】～タイの食品展示会を訪問～



世界の主要ニュース

日本のナフサ代替調達について(日本)

財務省が発表した5月の貿易統計(確報値)によると、ナフサ(粗製ガソリン)の輸入量が前年同月比で9.1%減少の143万キロリットルとなりました。輸入額は78.8%増加の1,774億円となりました。輸入数量の減少幅は前年同月比3月の38.2%減少、4月の45.1%減少から大きく縮小しました。中東からのナフサ輸入量は、中東情勢の悪化に伴うホルムズ海峡の事実上の封鎖を受けて、前年同月比95.3%の減少となりましたが、アメリカからの輸入が前年同月比で609.6%の大幅増加であり、中東から

の輸入量減少を補いました。アメリカ以外では、アルジェリア、ペルー、スペインなどからの輸入が増加しました。4月まで輸入が確認されたサウジアラビア、クウェート、カタールからの輸入がなくなり、アラブ首長国連邦(UAE)では限定的ではありますが、ホルムズ海峡を通らない代替ルートもあることから、中東産はUAE産のみとなりました。流通の不安は残るものの、今後も代替調達が進む見込みであるとされております。

日本・インドネシア経済連携協定(日本・インドネシア)

外務省は6月26日に日本・インドネシア経済連携協定(以下JIEPA)改正議定書の発効に必要な国内法上の手続きが両国にて完了となったと発表しました。同改正議定書は2026年8月1日に発効されました。JIEPAは2008年7月に発効された2国間経済連携協定です。改正議定書は2024年8月に署名され、物品貿易・サービス貿易・知的財産・政府調達などが対象となったほか、新たに電子商取引に関する章が新設されま

した。日本からインドネシア向けの輸出では、自動車・鉄鋼・鉄鋼製品などの関税撤廃・引き下げ、特定用途免税制度の改善などが盛り込まれていることから輸出拡大が見込まれています。日本への輸入においても、農水産品・加工食品が低関税等で輸入できる枠が拡大されます。今回の改正により、両国間の貿易はさらなる拡大と物流関係の活性化が見込まれます。

上半期GDP成長率が15年ぶりの高水準(ベトナム)

ベトナム統計局は2026年第2四半期(4月～6月)の実質GDP成長率(推計値)が、前年同期比8.39%になったと発表しました。第1四半期7.95%から上昇し、2026年上半期のGDP成長率(推計値)は8.18%となり、前年同期の7.63%を上回りました。工業・建設部門とサービス部門が全体成長への寄与の88%以上を占めたことにより、消費需要や物流活動の拡大が成長を支えました。また、輸出の回復や過去5年の上半期のなかで最高額130億3,000万ドル(約2兆1,000億円)が流入した外

国直接投資(FDI)も堅調でした。ベトナムは2026年から2030年の5年間で年平均10%以上の成長率目標を掲げています。2026年上半期は前年同期を上回っていますが、成長率目標を10%以上に設定していたため、年間目標の達成のため下半期はさらなる成長率が求められています。輸入需要増加に伴う貿易赤字の拡大や、原油価格上昇に伴うインフレ圧力、為替リスク等の経済情勢が不透明なかで、下半期に成長ペースをさらに高められるか注視が必要です。

たましん公表外国為替相場

(2026年6月16日～2026年7月17日、TTSレート、単位：円)

日付	6/16	6/17	6/18	6/19	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/29	6/30	7/1	7/2
米ドル	161.28	161.46	161.81	162.17	162.60	162.63	162.66	162.82	162.90	162.76	163.39	163.73	163.65
ユーロ	187.25	187.82	186.60	186.23	186.69	186.20	185.42	185.19	185.47	185.73	186.87	187.15	186.54
日付	7/3	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	最安値	最高値
米ドル	162.27	162.58	163.14	163.37	163.54	163.14	163.13	163.34	163.17	163.22	163.51	161.28	163.73
ユーロ	185.80	186.35	187.01	186.76	187.16	186.95	186.25	186.41	186.88	187.50	187.45	185.19	187.82

最新の外国為替相場はたましんホームページをご確認ください。(https://www.web-tamashin.jp/ex_rate/)



【現地出張レポート】

～ タイの食品展示会を訪問～

今回はタイに出張した際に訪れた食品展示会から見た同国の市場の特徴を、筆者の視点でご紹介します。



< THAIFEX2026会場 >

基本情報

タイ王国の面積は 51 万 3,115 km²(日本の約 1.4 倍)人口は 6,595 万人、首都はバンコクです。通貨はバーツで公用語はタイ語です。宗教については人口の約 95%が上座部仏教、その他がイスラム教、キリスト教などです。在留邦人は約 7 万人です。毎月のように開催される日本産食品フェア、数多く存在する日本食レストラン等により、日本産食品の認知度は高くなっています。

農林水産物・食品基礎情報

日本からの輸入額の多い品目はかつお、まぐろ類、いわし、牛肉、ホタテ貝となっています。輸入にあたっては輸入業務許可証が必要で、輸入許可手続きはタイに法人格がある企業のみ可能です。輸入許可証取得などの一連の手続きはタイの輸入業者が行います。加工されていない生鮮食品など一部の例外を除いて、商品ごとにタイ当局への登録が必要となっています。そのため、輸入業者が卸売を兼ねている場合が多い状況です。タイ人は、外食の利用頻度が高い傾向にあり、所得増加による食生活の多様化や健康志向の高まりは、日本食人気の追い風となっています。日本食レストランは増加傾向にあり、地方を中心に広がっています。ジャンル別では、総合和食店、寿司店、ラーメン店の順に店舗数が多くなっています。抹茶を取り入れたメニューも近年では非常に人気となっています。

THAIFEX2026 について

本展示会はタイ商務省等が主催するアジア最大級の総合食品見本市です。2000 年代初頭に小規模な食品展から始まり、現在では 56 カ国・地域から 3,590 社・団体が出展しており、2026 年実績では来場者数も過去最高の 15 万 8,243 人と大反響の展示会となりました。

バイヤーの日本食品への評価

バイヤーはタイ国内に限らず、ASEAN 各国、欧州、中東、北米からも多くの来場がありました。日本産食品に関しての印象を聞いてみると「品質の良さ、安全性、信頼性」といった一定の評価を得ており、展示会内の JAPAN パビリオンに来訪するバイヤーも多い状況でした。また、日本産食品で今後さらに期待しているカテゴリーに関して聞いてみると菓子、お茶、調味料、水産物へのニーズが高いことも確認できました。

所感と今後の展望

今回の出張を通じ、タイ王国における日本産食品の品質の高さが評価されていることを改めて感じました。タイ現地でバイヤーとの意見交換を通じて、日本産食品の高い人気の一方で、他国産商品との価格競争に巻き込まれないよう、商品の価値を伝える情報発信力が重要だと感じました。具体的には品質や味の良さだけでは差別化が難しい現状で、商品そのものだけでなく、商品のストーリー、こだわり等を伝えることで商品の付加価値を訴求することにもつながるからです。以上を踏まえて、販売戦略を立てタイへの輸出にチャレンジしてみたいかがでしょうか。

< 展示会でのジャパンプース >



多摩信用金庫 花田

本ニュースは情報提供のみを目的としています。

施策実施等に関する最終決定は、ご自身で判断されるようお願い致します。また、これらの情報は当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて作成されていますが、その正当性・完全性につきましては当金庫が保証するものではありませんのでご了承ください。

本ニュースのデジタル版はこちら

